
プロジェクト	ASAF 対応
項目	IASB 公開草案「IFRS 実務記述書 - 財務諸表への重要性の適用」 の項目別の評価

本資料の目的

1. 本資料は、IASB の公開草案「IFRS 実務記述書-財務諸表への重要性の適用」(以下「本 ED」という。)に対するコメント・レター案の作成のため、本 ED の中から IFRS の中で IASB が強制力がある部分とすることを検討すべきと考えられる記述を識別するために事務局が行った分析を示すことを目的として作成したものである。

事務局による分析

2. 上記分析にあたり、事務局では、次の作業を行った。
 - (1) 本 ED において、IASB が企業に対する一定の期待を示している可能性のある記述(具体的には、「…べきである (should)」という表現を使用している項目)を無作為に抽出する(事務局による作業の結果、24 の記述が抽出された。)
 - (2) 上記で抽出された記述について、次の要件に該当すると考えられるものを識別する(事務局による作業の結果、2 つの論点について、3 項が識別された。)
 - ① 該当する記述が必ずしも現行の IFRS で明示的に定められていないこと
 - ② 該当する記述が特定の経営者の行動に該当すること
 - ③ 該当する記述に強制力を与えることにより、IFRS に準拠して作成される財務情報の質の向上に資することが期待されること
3. 次ページ以降において、各項目が上記の要件に該当すると評価されたか否かに関する分析と評価結果を示している。なお、評価結果は、「基準に組み込むことを検討すべきと考えられる内容」、「教育的な性格を有すると考えられる内容」、「その他」(重要性の概念の議論に直接関係していない記述や、基準を直接引用している記述のいずれかに該当すると考えられたもの等)のいずれかとしている。

本 ED のうち、IFRS の中で IASB が強制力がある部分とすることを検討すべきと考えられる記述に関する評価

項	英文（参考訳）	コメント欄
重要性の一般的な特性 - 判断		
12	<p>When assessing whether information is material to the financial statements, management applies judgement to decide whether information could reasonably be expected to influence decisions that the users make on the basis of those financial statements. When applying such judgement, management should consider both the entity's specific circumstances and how the information will be used by users of the financial statements. An entity's circumstances change over time and so materiality is reassessed in each reporting period in the light of the entity's circumstances during that period. This assessment should include comparing the current year information with comparative information for prior periods to assess changes in the entity's activities or circumstances during the period.</p> <p>情報が財務諸表にとって重要性があるのかどうかを評価する際に、経営者は、利用者が当該財務諸表に基づいて行う意思決定に情報が影響を与えると合理的に予想できるかどうかを判定するために判断を適用する。こうした判断を適用する際に、経営者は、企業固有の状況と、その情報を財務諸表利用者がどのように利用するのかの両方を考慮すべきである。企業の状況は時とともに変化するものであるため、重要性は、各報告期間において当該期間中の企業の状況に照らして見直される。この評価には、当年度の情報と過去の期間に係る比較情報との比較を含めるべきである。企業の当期中の活動又は状況の変化を評価するためである。</p>	<p>評価：<u>教育的な性格を有すると考えられる内容</u></p> <p>理由：実質的に、多くの点について、IAS 第1号「財務諸表の表示」30A 項や IAS 第8号「会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬」5 項における重要性に関する記述を言い直したものと考えられるため。</p>
重要性の一般的な特性 - 財務諸表利用者と彼らの意思決定		
14	<p>Having identified the primary users of the entity's general purpose financial statements and other general purpose financial reports, management should consider the characteristics of those users, including their likely interests</p>	<p>評価：<u>教育的な性格を有すると考えられる内容</u></p>

項	英文（参考訳）	コメント欄
	<p>and what types of decisions they are making. This will then enable management to identify the information that the primary users could reasonably expect to receive and that could reasonably be expected to influence their decisions.</p> <p>企業の一般目的財務諸表及び他の一般目的財務報告書の主要な利用者を識別した後に、経営者は、それらの利用者の特性を考慮すべきである。これには、彼らが有していそうな利害や、彼らがどのような種類の意思決定を行っているのかが含まれる。これにより、経営者は、主要な利用者が受け取ると合理的に期待でき、彼らの意思決定に影響を与えることが合理的に予想できる情報を識別することが可能になる。</p>	<p>理由：本 ED 第 12 項の記述を追加的に説明する内容であるため。</p>
<p>重要性の一般的な特性 - 財務諸表の主要な利用者の特性</p>		
16	<p>Although management is entitled to assume that the primary users have a reasonable knowledge of business and economic activities, they cannot assume that the primary users are financial reporting experts.</p> <p>Furthermore, management should focus on typical and rational users, rather than a single, atypical user that is behaving unreasonably or irrationally.</p> <p>経営者には、主要な利用者が事業及び経済活動について合理的な知識を有していると想定する権利があるが、主要な利用者が財務報告の専門家であると想定することはできない。さらに、経営者が焦点を置くべきなのは、典型的で理性的な利用者であり、不合理又は非理性的に行動している単一の異例な利用者ではない。</p>	<p>評価：<u>教育的な性格を有すると考えられる内容</u></p> <p>理由：本ED第14項の記述を追加的に説明する内容であり、IFRSの強制力のある記述に位置付けるには相対的に細かすぎる内容と考えられるため。</p>
17	<p>An entity may have several different types of primary users. For example, the entity’s investors may include individuals holding different classes of shares, institutional investors, bond investors, employees with options to buy shares and/or other types of investors. Across the range of possible primary users there may be a broad range</p>	<p>評価：<u>教育的な性格を有すると考えられる内容</u></p> <p>理由：本ED第14項及び第16項の記述を追加</p>

項	英文（参考訳）	コメント欄
	<p>of information needs and some may have dissimilar information needs and expectations. For example, some information might be useful to some primary users, but not others. If an entity has many classes of primary users, the <u>financial statements should present</u> and disclose information so as to meet the common information needs of a broad range of those classes.</p> <p>企業には、いくつかの異なる種類の主要な利用者がいる。例えば、企業の投資者には、種々のクラスの株式を保有している個人や、機関投資家、債券投資家、株式購入オプションを有している従業員、あるいは他の種類の投資者が含まれている場合がある。考え得る主要な利用者の範囲の全体にわたり、広範囲の情報ニーズがある可能性があり、一部には異質な情報ニーズと期待を有している者がいるかもしれない。例えば、情報の中には、一部の主要な利用者には有用であるが、他の主要な利用者には有用でないものがあるかもしれない。企業に多くのクラスの主要な利用者がいる場合には、財務諸表は、情報の表示及び開示をそうした幅広いクラスの共通の情報ニーズを満たすように行うべきである。</p>	<p>的に説明する内容であり、IFRSの強制力のある記述に位置付けるには相対的に細かいすぎる内容と考えられるため。</p>
<p>重要性の一般的な特性 - 財務諸表の主要な利用者が行う意思決定</p>		
21	<p>In developing Standards, the IASB seeks to identify the information that is expected to meet the needs of a broad range of primary users, for a wide variety of entities. Consequently, when management considers what information should be provided in the financial statements, the requirements in <u>IFRS should provide</u> the basis for that assessment. The requirements within IFRS have been developed by the IASB taking into consideration the balance between the benefits of providing information to users of the financial statements and the costs of complying with those requirements. Consequently, the cost of applying the requirements in IFRS is not a factor for management to consider when assessing whether information is material. However, it is not sufficient to apply the presentation and disclosure requirements in a Standard mechanically, without considering the entity's specific</p>	<p>評価：その他 内容：基準開発にあたって考慮すべき点を記述したものであるため。</p>

項	英文（参考訳）	コメント欄
	<p>circumstances, whether the entity’s primary users have any special needs and whether the information provided meets or exceeds the needs of an entity’s primary users.</p> <p>基準を開発する際に、IASBは、多様な企業について、広範囲の主要な利用者のニーズを満たすと見込まれる情報を識別することを図る。したがって、経営者がどのような情報を財務諸表において提供すべきかを検討する際に、IFRSの要求事項はその評価の基礎を提供すべきである。IFRSの中の要求事項は、IASBが、財務諸表利用者に情報を提供することの便益と当該要求事項を順守することのコストとのバランスを考慮に入れて開発してきたものである。したがって、IFRSにおける要求事項の適用のコストは、情報に重要性があるのかどうかを評価する際に経営者が考慮すべき要因ではない。しかし、基準における表示及び開示の要求事項を機械的に適用して、企業の具体的な状況、企業の主要な利用者が何か特別なニーズを有しているのかどうか、提供される情報が企業の主要な利用者のニーズを満たすか又は超えるのかを考慮しないのは、不十分である。</p>	
<p>重要性の一般的な特性 - 単独での評価と総体としての評価</p>		
29	<p>The assessment of whether information is material or immaterial should be undertaken on both an individual and a collective basis. Even if information is judged not to be material in isolation (ie it is considered immaterial), it might be material when considered together with other information (for example see paragraph 39(c)).</p> <p>情報に重要性があるのかないのかの評価は、単独での評価と総体としての評価の両方のベースで行うべきである。たとえ情報が単独では重要でないと判断される（すなわち、重要性がないと考えられる）場合であっても、他の情報と一緒に考慮した場合には重要性があるかもしれない（例えば、第39項(c)参照）。</p>	<p>評価：<u>その他</u></p> <p>理由：IAS第1号7項における重要性の定義に関する記述を実質的に繰り返したものであるため。</p>

項	英文（参考訳）	コメント欄
財務諸表における表示及び開示 - 重要性の評価の文脈		
30	<p>The primary objective of financial statements is to provide information about the financial position, financial performance and cash flows of an entity that is useful to a wide range of users in making economic decisions. Judgements on whether information is material should be made within the context of this objective and by considering the complete set of financial statements (ie the primary financial statements together with the notes). Financial statements also show the results of the management’s stewardship of the resources entrusted to it.</p> <p>財務諸表の主要な目的は、企業の財政状態、財務業績及びキャッシュ・フローに関して広範囲の利用者が経済的意思決定を行う際に有用な情報を提供することである。情報に重要性があるのかどうかの判断は、この目的の文脈の中で、完全な1組の財務諸表（すなわち、注記を伴った基本財務諸表）を考慮することによって行うべきである。財務諸表は、経営者に委託された資源についての経営者の受託責任の成果も示す。</p>	<p>評価：<u>基準に組み込むことを検討すべきと</u> <u>考えられる内容</u></p> <p>理由：IAS第1号9項及び公開草案「財務報告に関する概念フレームワーク」3.4項で規定されている財務諸表の目的を踏まえて、第32項とあわせて重要性を評価するに当たっての基礎となる事項（財務諸表の目的の文脈において評価を行うべきである旨と、完全で財務諸表のセットについて考慮すべき旨）を記述したものであり、本ED第32項の記述と併せることで、財務情報の質の向上に寄与することが期待しうると考えられるため。</p>
31	<p>Applying the concept of materiality when preparing the financial statements requires judgement to be applied in the light of the objective of the financial statements. Management should use judgement not only to decide whether to include or exclude information in the financial statements, but also in considering how information should be presented or disclosed in those financial statements.</p> <p>財務諸表を作成する際に重要性の概念を適用するには、財務諸表の目的に照らして判断を適用すること</p>	<p>評価：<u>教育的な性格を有すると考えられる</u> <u>内容</u></p> <p>理由：単に経営者の判断に関する説明を記述したものであり、同様の内容が本ED第32項(a)にも含まれているため。</p>

項	英文（参考訳）	コメント欄
	<p>が必要となる。経営者は、情報を財務諸表に含めるべきか除外すべきかを決定するためだけでなく、当該財務諸表において情報をどのように表示又は開示すべきかを検討する際にも、判断を使用すべきである。</p>	
32	<p>Management should also assess whether information is material within the context of the different parts of the financial statements; for example:</p> <p>(a) whether and how information should be presented separately in the primary financial statements;</p> <p>(b) whether and how information should be included in the notes; and</p> <p>(c) whether the assessment in paragraph 32(a) or (b) changes after reviewing the complete set of financial statements.</p> <p>経営者は、情報に重要性があるのかどうかを、財務諸表の異なる各部分の文脈の中でも評価すべきである。例えば、</p> <p>(a) 情報を基本財務諸表において区分表示すべきかどうか、どのように区分表示すべきか</p> <p>(b) 情報を注記に記載すべきかどうか、どのように記載すべきか</p> <p>(c) 第 32 項 (a) 又は (b) の評価が、完全な 1 組の財務諸表として見直した後に変化するかどうか</p>	<p>評価：<u>基準に組み込むことを検討すべきと</u> <u>考えられる内容</u></p> <p>理由：本ED第30項の記述と併せて、財務情報の質の向上に寄与することが期待すると考えられるため。</p>
財務諸表における表示及び開示 - 情報の集約と分解		
38	<p>If a line item in the primary financial statements is not individually material, it does not need to be disaggregated further, and it can be aggregated with other related or similar items even if IFRS prescribes separate presentation. However, an item that is not material in the primary financial statements may warrant separate presentation in the notes. For example, management may decide to combine all of its financial assets that are measured at fair value through profit or loss together in one line item on the face of the statement of financial position, if separate</p>	<p>評価：<u>教育的な性格を有すると考えられる</u> <u>内容</u></p> <p>理由：本ED第32項 (a) の記述を説明する内容であるため。</p>

項	英文（参考訳）	コメント欄
	<p>presentation is not considered material within the context of the primary financial statements.</p> <p>However, management should also consider whether separate presentation of different classes of financial assets is material within the context of the notes because of the different characteristics of those financial assets.</p> <p>For example, there may be different types of financial assets (such as equity or debt instruments) or assets may have different risk characteristics. Nevertheless, line items in the primary financial statements are disaggregated in the notes only if information about their components is material. If, for example, the components of the line item are similar and there is no single significant component, disaggregation in the notes may not provide useful information.</p> <p>基本財務諸表における表示項目が単独で重要性がない場合には、それをさらに分解する必要はなく、たとえIFRSが区分表示を定めている場合であっても、他の関連した項目又は類似した項目と集約することができる。しかし、基本財務諸表において重要性のない項目が、注記における区分表示を正当化する場合がある。例えば、企業は、基本財務諸表の文脈の中で区分表示に重要性があるとは考えられない場合に、公正価値で測定する金融資産のすべてを合算して財政状態計算書の本体上の1つの表示項目に合算すると決定するかもしれない。しかし、経営者は、異なるクラスの金融資産の区分表示が、当該金融資産の特性の相違により注記の文脈の中では重要性があるのかどうかも検討すべきである。例えば、異なる種類の金融資産（資本性金融商品又は負債性金融商品など）がある場合や、資産に異なるリスク特性がある場合がある。それでも、基本財務諸表における表示項目が注記において分解されるのは、それらの内訳項目に関する情報に重要性がある場合のみである。例えば、表示項目の内訳項目が同様に、単一の重大な内訳項目がない場合には、注記での分解は有用な情報を提供しない可能性がある。</p>	
39	<p>an entity may have a small net foreign exchange difference as a result of transactions in foreign currencies. That</p>	<p>評価：教育的な性格を有すると考えられる</p>

項	英文（参考訳）	コメント欄
(b)	<p>net difference might have arisen from a large number of small exchange gains on a broad base of recurring transactions and a substantial loss that resulted from one speculative forward foreign exchange transaction. IAS 21 <i>The Effects of Changes in Foreign Exchange Rates</i> specifies only that the amount of exchange differences is disclosed. When making judgements about materiality, the entity should assess whether the loss should be reported separately from the other exchange differences. The fact that a large loss was incurred relative to the other transactions, and that the loss was from speculative activity, suggests that aggregating these exchange differences would result in a loss of material information. In this scenario, information that could influence users' opinions of management's stewardship would be lost through aggregation.</p> <p>企業が、外貨での取引の結果として少額の正味の為替差額を有している場合がある。その正味差額は、幅広い経常的取引に係る多数の少額の為替差益と1件の投機的な為替予約取引から生じた多額の差損から生じたものかもしれない。IAS第21号「外国為替レート変動の影響」は、為替差額の金額が開示される旨だけを定めている。重要性に関する判断を下す際に、企業は、この損失を他の為替差額と区分して報告すべきかどうかを評価すべきである。他の取引と比較して多額の損失が発生しており、その損失が投機活動から生じたものであるという事実は、これらの為替差額を集約すると重要性のある情報の喪失が生じるであろうことを示唆している。このシナリオでは、経営者の受託責任についての利用者の意見に影響を与える可能性のある情報が、集約を通じて失われることになる。</p>	<p><u>内容</u> 理由：本ED第32項(a)及び第38項に関する事例を示すものであるため。</p>
財務諸表における表示及び開示 - 基本財務諸表か注記か - 基本財務諸表		
42	<p>When assessing which line items should be presented on the face of a primary financial statement, management considers how to provide a representative summary of the financial information of the entity—for example, it considers which items or classes of items should be presented separately because of their relative size or their</p>	<p>評価：<u>教育的な性格を有すると考えられる</u> <u>内容</u> 理由：表示科目の区分表示については、財</p>

項	英文（参考訳）	コメント欄
	<p>nature. Management should also consider the degree of similarity or difference between individual line items when determining whether those items should be combined or presented separately.</p> <p>どの表示項目を基本財務諸表の本体に表示すべきなのかを評価する際に、経営者は、企業の財務情報の代表的な要約を提供する方法を検討する。例えば、どの項目又は項目クラスを相対的な規模又は性質により区分表示すべきなのかを検討する。経営者は、個々の表示項目を合算すべきか区分表示すべきかを決定する際に、表示項目間の類似性又は相違の程度も考慮する。</p>	<p>政状態計算書に関してはIAS第1号58項、純損益計算書に関してはIAS第1号86項に既に定められている内容であるため。</p>
43	<p>Management considers whether an item is material by considering it relative to individual line items, subtotals and totals on the face of an individual statement, as well as to each overall individual statement. Management should also consider the relationships between each of the primary financial statements. When presenting line items, management should assess which items serve as useful signposts to link the face of the statements with the detail in the notes to help the primary users navigate through the financial statements.</p> <p>経営者は、ある項目に重要性があるのかどうかを、個々の表示項目、個々の計算書の本体上の小計及び合計とともに、全体的な個々の各計算書との比較で考慮することによって検討する。経営者は、各基本財務諸表間の関係も考慮すべきである。表示項目を表示する際に、経営者は、どの項目が、各計算書の本体を注記における詳細と結び付けて、主要な利用者が財務諸表の間を航行するのに役立つ有用な標識として機能するのかを評価すべきである。</p>	<p>評価：(前半) <u>教育的な性格を有すると考えられる内容</u>、(後半) <u>基準に組み込むことを検討すべきと考えられる内容</u></p> <p>理由：(前半) 各計算書の関係性を考慮することによって、具体的に財務情報の質の向上がどのように期待されるかについて明らかにされていないため。</p> <p>(後半) 各計算書の本体が注記に関する有用な標識となるように検討する旨と同様の内容自体はIAS第1号にあるという指摘があるものの、当該記述は実務における判断において分かりやすい記述であるため、財務情報の質の向上に寄与することが期待しうると考えられるため。</p>

項	英文 (参考訳)	コメント欄
財務諸表における表示及び開示 - 基本財務諸表か注記か - 注記		
47	<p>One of the main objectives of the notes, as an integral part of the financial statements, is to amplify and explain the items in the primary financial statements. Information that is material to the financial statements, but for which separate presentation in the primary financial statements is not material, is provided in the notes. Nevertheless, if information is material in the context of the primary financial statements then disclosure in the notes is not sufficient. For example, management may decide to present only a single amount for total revenue on the face of the statement of comprehensive income. In the notes management should disaggregate the amount and disclose further information, as appropriate, to enable the primary users to understand the nature, amount, timing and uncertainty of the revenue and related cash flows.</p> <p>注記の主要な目的の1つは、財務諸表の不可欠な一部分として、基本財務諸表における項目を詳述し説明することである。財務諸表にとって重要性があるが、基本財務諸表における区分表示には重要性がない情報は、注記において提供される。しかし、情報が基本財務諸表の文脈において重要性がある場合には、注記における開示では十分ではない。例えば、経営者が、収益の合計についての単一の金額だけを包括利益計算書の本体に表示すると決定するかもしれない。注記において、経営者は当該金額を分解して、適宜、さらに詳細を開示すべきである。主要な利用者が収益及び関連するキャッシュ・フローの性質、金額、時期及び不確実性を理解できるようにするためである。</p>	<p>評価：<u>教育的な性格を有すると考えられる内容</u> 理由：IAS第1号112項における定めを説明する内容であるため。</p>
財務諸表における表示及び開示 - 基本財務諸表か注記か - IFRS における所定の開示		
50	<p>The disclosure requirements in IFRS are the basis for management to decide what information should or should not be disclosed in the notes. When a Standard contains a disclosure requirement and the related information to satisfy that requirement is material, then management should disclose that information in line with the IFRS</p>	<p>評価：<u>教育的な性格を有すると考えられる内容</u> 理由：本ED第49項に記載されているIAS第1</p>

項	英文 (参考訳)	コメント欄
	<p>requirement. However, this does not mean that IFRS disclosure requirements should be treated as a checklist, without regard to the entity's circumstances and the needs of its primary users. Management is not required to provide disclosures in the level of detail specified by a Standard, or even provide them at all, if the related information is not material, because immaterial information does not need to be disclosed.</p> <p>IFRSにおける開示要求は、どのような情報を注記で開示すべきか、あるいは開示すべきではないのかを経営者が決定するための基礎である。ある基準が開示要求を含んでいて、その要求を満たすための関連する情報に重要性がある場合には、経営者は、その情報をIFRSの要求事項に沿って開示すべきである。</p> <p>しかし、これは、IFRSの開示要求を、企業の状況や主要な利用者のニーズに関係なく、チェックリストとして扱うべきであることを意味するものではない。経営者は、関連する情報に重要性がない場合には、基準で定められているレベルの詳細さで開示を提供することを要求されず、全く提供しなくてよい場合さえある。重要性のない項目は開示する必要がないからである。</p>	<p>号31項の規定を説明する内容であるため。なお、本項の最後の文章(management is not required to…)の記述は、今回の開示イニシアティブの目的を踏まえると目的適切的な記述ではあるが、同様の内容は既にIAS第1号31項等において記述されていると考えられる。</p>
51	<p>When Standards contain disclosure objectives, management should make an overall assessment of whether it has satisfied those objectives for material information. This includes considering:</p> <p>(a) whether financial statements provide all the specified disclosure requirements related to an objective; and</p> <p>(b) whether information in addition to that specified in the Standards should be disclosed to meet those objectives and help users understand the information provided.</p> <p>基準が開示目的を含んでいる場合には、経営者は、重要性のある情報について当該目的を満たしているかどうかの全体的な評価を行うべきである。これには、以下の検討が含まれる。</p> <p>(a) 財務諸表が、目的に関連した所定の開示要求のすべてを提供しているかどうか</p> <p>(b) 基準に定められた情報に加えて、当該目的を満たし利用者が提供された情報を理解するのに役立つ</p>	<p>評価：<u>教育的な性格を有すると考えられる内容</u></p> <p>理由：開示目的が記述されている会計基準には既に記載されている記述であり、IFRSの開発にあたって参考になる内容と考えられるため。なお、開示原則プロジェクトにおける議論を踏まえて記述が修正される可能性もあると考えられる。</p>

項	英文 (参考訳)	コメント欄
	情報を開示すべきかどうか	
53 (a)	<p>IAS 16 <i>Property, Plant and Equipment</i> prescribes specific disclosure requirements for property, plant and equipment. However, even if property, plant and equipment is presented as a separate line item in the statement of financial position, not all disclosures specified in IAS 16 will automatically be material for an entity. For example, if the amount of contractual commitments for the acquisition of property, plant and equipment is not material, such disclosure is not required. Furthermore, management should provide other information about property plant and equipment, even if not specifically required by IFRS, if that information could reasonably be expected to influence decisions that the primary users make on the basis of the financial statements.</p> <p>IAS第16号「有形固定資産」では、有形固定資産についての具体的な開示要求を定めている。しかし、たとえ有形固定資産が財政状態計算書において独立の表示項目として表示されている場合であっても、IAS第16号に定められている開示のすべてが自動的に企業にとって重要性があるものとなるわけではない。例えば、有形固定資産の取得に関する契約上のコミットメントに重要性がない場合には、そうした開示は要求されない。さらに、経営者は、たとえIFRSで具体的に要求されていなくても、主要な利用者が財務諸表に基づいて行う意思決定に影響を与えると合理的に予想できる情報である場合には、有形固定資産に関する他の情報を提供すべきである。</p>	<p>評価：<u>教育的な性格を有すると考えられる内容</u></p> <p>理由：本ED第52項に関する事例を示すものであるため。</p>
53 (d)	<p>IFRS 8 <i>Operating Segments</i> requires disclosure of information that might be recognised and measured on a different basis than IFRS (even though IFRS 8 requires the segment information to be reconciled to corresponding IFRS figures in the entity's financial statements). Nevertheless the concept of materiality should still be applied by management in deciding what information to include in the financial statements about an entity's operating segments. IFRS 8 also provides additional criteria that management should consider as part of</p>	<p>評価：<u>教育的な性格を有すると考えられる内容</u></p> <p>理由：本ED第52項に関する事例を示すものであるか、IFRSにおける開示要求を説明するものであるため。</p>

項	英文 (参考訳)	コメント欄
	<p>its materiality judgements, including segment aggregation criteria, and quantitative thresholds for segments.</p> <p>IFRS第8号「事業セグメント」では、IFRSとは異なる基礎で認識及び測定が行われている可能性のある情報の開示を要求している (IFRS第8号は、セグメント情報を企業の財務諸表上の対応する数字に調整することを要求しているが)。それでも、重要性の概念は、やはり、企業の事業セグメントに関してどのような情報を財務諸表に記載すべきかを決定する際に経営者が適用すべきである。IFRS第8号では、経営者が重要性の判断の一部として考慮すべき追加的な要件 (セグメント集約の要件を含む) 及びセグメントについての定量的閾値も示している。</p>	
<p>財務諸表における表示及び開示 - 基本財務諸表か注記か - 各報告日における注記開示のレビュー</p>		
<p>54 (a)</p>	<p>if in the prior period the entity undertook a significant business combination, management would consider what information is important to an understanding of the current period financial statements. This might lead management to conclude that it should not reproduce all of the detail about the business combination provided in the prior period's financial statements. However, management should still provide sufficient information for comparisons to be made between years and to the extent that the information is relevant to understanding the current period financial statements, including the comparative information.</p> <p>過去の期間において、企業が重大な企業結合を行った場合には、経営者は、どのような情報が当期の財務諸表の理解に重要であるのかを検討することになる。これは、経営者が、過去の期間の財務諸表において提供した企業結合に関する詳細のすべてを再度記載すべきではないと結論を下す結果となるかもしれない。しかし、経営者は依然として、年度間の比較を行ために十分な情報を、当該情報が当期の財務諸表 (比較情報を含む) の理解に関連性がある範囲で、提供すべきである。</p>	<p>評価：<u>教育的な性格を有すると考えられる</u> <u>内容</u> 理由：本ED第54項冒頭の記述に関する事例を示すものと考えられるため。</p>
<p>財務諸表における表示及び開示 - 財務諸表の完全な1組</p>		

項	英文 (参考訳)	コメント欄
56	<p>IAS 1 requires an assessment of whether information is material individually and collectively (see paragraph 29). Consequently, the assessment of whether an individual piece of information is material in the financial statements is not made in isolation. This assessment should also consider whether the information is material in combination with other information in the complete set of financial statements. This wider perspective enables management to consider the overall picture of the entity’s financial position, financial performance and cash flows, including information about financial trends. It also enables an overall assessment of whether information in the financial statements is communicated in an effective and understandable way. For example management should consider whether matters of particular importance have been given sufficient prominence and whether related information is presented in such a way that the linkage is clear.</p> <p>IAS第1号では、情報が単独で及び総体として重要性があるのかどうかの評価を要求している(第29項参照)。したがって、財務諸表において個々の情報に重要性があるのかどうかの評価は単独では行われない。この評価は、情報が財務諸表の完全な1組の中の他の情報との組合せで重要性があるかどうかを考慮すべきである。このより幅広い視点により、経営者が企業の財政状態、財務業績及びキャッシュ・フローの全体像(財務上の趨勢に関する情報を含む)を検討することが可能になる。また、財務諸表における情報が効果的かつ理解可能な方法で伝達されているかどうかの全体的な評価も可能となる。例えば、経営者は、特に重要な事項が十分に目立つようにされているかどうかや、関連する情報が関連性が明確となる方法で表示されているかどうかを考慮すべきである。</p>	<p>評価：<u>教育的な性格を有すると考えられる内容</u></p> <p>理由：本ED第12項の内容を追加的に説明しているものであるほか、IAS第1号9項における記述を併せて考えると、本項の記述が財務情報の質の向上に資する可能性は限定的であると考えられるため。</p>
認識及び測定 - 実務上の便法		
64	<p>An entity might have an internal policy of capitalising capital expenditures only in excess of a specified threshold and recognising smaller amounts as an expense, because any smaller amounts are considered to be clearly</p>	<p>評価：<u>その他</u></p> <p>理由：重要性の概念に関する記述ではな</p>

項	英文（参考訳）	コメント欄
	<p>immaterial. Management has assessed that this departure from IFRS is unlikely to have a material effect both on the current financial statements and in future financial statements, because it is clear such expenditure could not reasonably be expected to influence decisions made by the primary users. Such a policy should nevertheless be reassessed periodically to ensure that these assumptions remain appropriate. Provided that such a practice does not have a material effect on the financial statements, it would not prevent the entity's financial statements from complying with IFRS (see also paragraphs 77-79).</p> <p>企業が、所定の閾値を超える資本的支出だけを資産化し、それより小さい金額は費用として認識するという内部的な方針を有しているかもしれない。それより小さい金額は明らかに重要性がないと考えられるからである。経営者は、IFRSからのこの乖離が現在の財務諸表と将来の財務諸表の両方に重要な影響を与える可能性は低いと評価している。そのような支出が主要な利用者が行う意思決定に影響を与えるとは合理的に予想できないことが明らかだからである。それでも、このような方針は、これらの想定が依然として適切であることを確保するために、定期的に見直すべきである。このような慣行が財務諸表に重要な影響を有さないのであれば、企業の財務諸表がIFRSに準拠することの妨げとはならない（第77項から第79項も参照）。</p>	<p>く、本EDにおける議論に直接関係がないため。</p>
脱漏及び誤表示（「誤表示」） - 識別された誤表示		
67	<p>Omissions (ie excluding relevant data/information), errors and other misstatements of information (eg describing information ambiguously or obscuring material information) (collectively referred to as 'misstatements' in this document) are material if, individually or collectively, they could reasonably be expected to influence decisions that the primary users make on the basis of the financial statements. Management should assess whether misstatements of information are material to the financial statements. This assessment includes considering any</p>	<p>評価：<u>教育的な性格を有すると考えられる内容</u> 理由：実質的に、IAS第1号7項に規定された重要性の定義に関する記述を繰り返したものと考えられるため。</p>

項	英文（参考訳）	コメント欄
	<p>misstatements in the comparative information included in respect of prior periods.</p> <p>情報の脱漏（すなわち、関連性のあるデータ・情報を除外すること）、誤謬及び他の誤表示（例えば、情報を曖昧に記述したり重要性のある情報を覆い隠したりすること）（この文書では、総称して「誤表示」と呼ぶ）は、それらが、単独で又は総体として、主要な利用者が財務諸表に基づいて行う意思決定に影響を与えると合理的に予想できる場合には、重要性がある。経営者は、情報の誤表示が財務諸表にとって重要性があるかどうかを評価すべきである。この評価には、過去の期間について記載されている比較情報における誤表示の検討が含まれる。</p>	
69	<p>In assessing whether misstatements are material, management should take into account how precisely transactions can be measured. For example most cash disbursements or cash sales are capable of precise measurement and so misstatement of these transactions would not be expected to occur frequently if an entity has effective internal controls. For other transactions, precise measurement will not be possible and management is required to make estimates; for example provisions for expected environmental clean-up costs or Level 3 fair value measurements. Because of the uncertainty inherent in estimates, it may be more difficult to assess misstatements in these situations. Consequently, the disclosures in the financial statements should ensure that the primary users are made aware of the subjectivity involved in recognising and measuring such items. When considering whether an adjustment should be treated as a change in estimate or the correction of an error management should be guided by the requirements in IAS 8.</p> <p>誤表示に重要性があるかどうかを評価する際に、経営者は、取引がどれだけ正確に測定できるのかを考慮に入れるべきである。例えば、ほとんど現金支出や現金売上は正確な測定が可能なので、こうした取引の誤表示は、企業が有効な内部統制を有している場合には頻繁に発生することはないと見込まれるで</p>	<p>評価：<u>教育的な性格を有すると考えられる</u> 内容 理由：本ED第68項の記述を追加的に説明する内容であり、財務情報の質の向上に資する影響は限定的であると考えられるため。</p>

項	英文（参考訳）	コメント欄
	<p>あろう。他の取引については、正確な測定は可能ではなく、経営者は見積りを行うことを要求される。例えば、予想される環境浄化コストに係る引当金 やレベル3の公正価値測定である。見積りに固有の不確実性があるため、こうした状況では誤表示を評価することがより困難となる。したがって、財務諸表における開示は、主要な利用者がそうした項目の認識及び測定に伴う主観性を知ることが確保すべきである。修正を見積りの変更と誤謬の訂正のいずれとして扱うべきなのかを検討する際に、経営者はIAS第8号の要求事項を手引きとすべきである。</p>	
	<p>脱漏及び誤表示（「誤表示」） - 当期の誤表示</p>	
71	<p>Management should amend the financial statements for all material misstatements identified before the entity's financial statements are authorized for final issue regardless of the cost of doing so.²⁵ Furthermore, it would be considered good practice that management corrects all misstatements, even those that are not material. However, in some circumstances correcting an immaterial misstatement may be unduly costly or delay publication of an entity's financial statements. In such a case, management should evaluate all identified misstatements to consider whether, in relation to individual line items, subtotals, or totals in the financial statements, failure to address those misstatements could result in a material misstatement and hence result in non-compliance with IFRS. This requires consideration of the pervasiveness of the misstatements in the financial statements (eg whether they affect numerous line items). For example, an error recorded on a purchase of inventories will affect other balances such as trade payables, cost of sales and closing inventory.</p> <p>経営者は、企業の財務諸表の最終公表が承認される前に識別された重要性のある誤表示のすべてについて、修正のコストに関係なく、財務諸表を修正すべきである。さらに、たとえ重要性のないものであっても経営者がすべての誤表示を訂正することは良好な実務と考えられるであろう。しかし、状況によ</p>	<p>評価：教育文書に組み込む内容 理由：実質的に、IAS第10号「後発事象」又はIAS第1号7項における重要性の定義に関する記述を繰り返したものと考えられるため。</p>

項	英文（参考訳）	コメント欄
	<p>ては、重要性のない誤表示の訂正は過大なコストを生じたり企業の財務諸表の公表を遅らせたりする可能性がある。そのような場合には、経営者は識別されているすべての誤表示を評価して、財務諸表における個々の表示項目、小計又は合計に関して、それらの誤表示に対処しないことにより重要な誤表示が生じてIFRSに準拠しない結果となる可能性があるかどうかを検討すべきである。これには、財務諸表の誤表示の影響の広さの検討が必要となる（例えば、多数の表示項目に影響を与えるかどうか）。例えば、棚卸資産の購入に記録された誤謬は、買掛金、売上原価、棚卸資産期末残高などの他の残高に影響を与えることになる。</p>	

以 上